

3類型	鋳工業品	通巻番号	4-26-012
地域資源名	高岡銅器	認定日	平成27年2月2日
地域	高岡市	所管省庁	経済産業省

事業名：高岡銅器を活用し木製漆器を複合させた酒器等の製造・販売事業

会社名：有限会社四津川製作所

所在地：富山県高岡市金屋町6-5

連絡先：TEL：0766-30-8108

H P：http://www.kisen.jp.net/about/

FAX：0766-26-1063

事業概要(新たな活用の視点)

- ・これまで、産地では銅製品の酒器等テーブルウェア商品は、食品衛生法第三章「器具および容器包装」における制約(食物に触れる部分は銀または錫の鍍金が原則必要)が課されていた事で、あまり普及してこなかった。本事業では、その課題を解決し、酒器等での高岡銅器の活用の道を広げるため、食器の底部に重厚感のある銅器を使用し、食品が触れる部分を木製とする、異素材を接合した商品を開発した。
- ・高岡銅器の生産で培われた精緻な金属加工技術と銅器への着色技術、銅合金と異素材の接合強度の向上等の要素を組み合わせ、新たに創出した商品は、木製の白木にマッチする新たな発色方法を用いて完成させた。また、デザイン性向上と器に安定感を持たせる機能性を備えた酒器となった。



【吟醸酒用の酒器】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

・既存品として、100%金属素材のぐい飲み等は存在する。金属製の酒器の口あたりは酒の味をクリアにするが、温かみに欠ける。逆に木製の飲み口の器は、温かみのある口あたりで味をまろやかにする効用を有している。日本酒通にとって魅力がある本格的な酒器。

◆市場性

・国内の清酒需要は年々低下しているものの、吟醸酒や純米酒といった銘柄酒の需要は近年横ばいないし微増傾向にある。また米国を主とした海外での日本酒需要も、和食ブームの影響で年々輸出量が増加している。国税庁の「酒のしおり平成24年」では国内の日本酒消費量は593千kl、海外輸出量は16.2千klある。またテーブルウェア市場は国内で3,970億円(矢野経済研究所調べ)あり事業として十分な市場規模を有する。

◆販路

・現在は首都圏の百貨店を中心とした販路を有し、自社のWEB直販でも販売中。今後は、高級料飲店、高級ホテル・旅館等への販路拡大と、パーソナルギフトとしての需要開拓も行う。

地域における関係事業者等との連携

・製造面では銅合金 casting・旋盤加工、銅合金着色加工は地域内の事業者と連携する。デザイン面では富山県総合デザインセンター、販路開拓および、事業PRは高岡商工会議所や県の支援機関と連携していく。



【本醸造酒用の酒器】